

(別紙)

MRI用造影剤使用に関する説明書 (造影検査を受けられる方のみ)

予約された検査では、MRI検査専用の造影剤を使用します。造影剤はより正確な診断をするために用いますが、一方、下記に示すような副作用が極まれに起こることもあります。

○軽い副作用

吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、くしゃみ、発疹、注射部位の痛みなどですが、検査の1～2日後に発疹が現れることもあります。これらは治療を要さないか、1～2回の投薬や注射で回復するものです。このような症状が発生する頻度は、約1,000人につき1人以下、つまり0.1%以下です。

○重い副作用

呼吸困難、嘔声、意識障害、血圧低下などが、極まれに発生するといわれています。このような副作用は、入院のうえ治療が必要で、場合によっては後遺症が残る可能性があります。また、発生頻度は不明ですが、腎障害がある場合には、全身性線維症が現れることがあります。

○遅発性副作用

体質により検査終了後に副作用(発疹、かゆみ、むくみ、吐き気、のどのイガイガ感、咳、冷や汗、動悸、脱力感、めまい)が現れる事があります。このような副作用は出るとすれば検査後10分以内がほとんどですが、ごくまれに数時間から数日後(多くは2日以内)に遅発性の副作用としてあらわれることがあります。また注射部位の痛みが数日間持続する場合もあります。

○緊急時の対応について

検査中は看護師と放射線技師があなたの側におりますので、何か異常を感じたらすぐにお知らせ下さい。直ちに放射線科専門医に連絡し、最善の対処を行います。

患者さまには造影剤の必要性と危険性をよくご理解して頂いた上で、安全に検査を行うために別紙問診票にお答え頂き、造影剤の使用に同意いただける場合、署名をお願いいたしております。なお、お答えの内容によっては、当日医師が判断し造影剤を使用しない場合もありますので、あらかじめご了承下さい。

【外来患者さまで、帰宅した後に副作用が現れた場合の連絡先】

独立行政法人 国立病院機構 南和歌山医療センター

電話 0739-26-7050 (主治医または当直医師まで)